

明日からできる 個別最適な学びと協働的な学び 【国語科授業展開例】

主体的・対話的で深い学びの 実現に向けて



東葛飾教育事務所
指導室

個別最適な学びと協働的な学びは、主体的・対話的で深い学びの手段の一つです。

国語の授業で、明日からすぐにできる個別最適な学びと協働的な学びの実践のヒントとして御覧ください。

「生き物ブックを作ろう」 小3国語

単元の目標

B書くこと(1)イ(構成の検討)

書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の
関係に注意したりして、文章の構成を考えること。

ウ(考えの形成・記述)

自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を
工夫すること。



わかりやすい言葉
にして、子供と共有
する。

- 書く内容の中心をはっきりさせて、本や図鑑などで調べる。
- 伝えたい内容に合った図や資料を選ぶ。
- 内容のまとまりで段落を作ったり、段落と段落の関係に注意したりする。
- 理由や例をあげて説明する。

小学校3年生の読む教材「めだか」の次に出てくる教材です。めだかという生き物の説明文を読んだ後、この単元では、自分で好きな生き物を選び図や資料を入れながら文章を書き、クラスで生き物ブックをつくります。この単元でどのように個別最適な学びと協働的な学びを取り入れていくか、例をあげていきます。

単元の目標は書くことのイ構成の検討とウ考えの形成・記述としました。学習指導要領に書かれていることをわかりやすい言葉にかみくだき、子供と共有することが大切です。青枠の中に、わかりやすい言葉にした4つの文にまとめてみました。

単元計画

時間	活動内容	個別最適な学びと協働的な学び
1	見通しをもつ。 生き物をえらび、調べる。	自分で調べたい生き物を選ぶ。 学習評価A・B・Cを決める。 個
2	組み立て表を作る。	数種類の組み立て表から自分に 合った表を選ぶ。 個
3	文章を書く。	人、場所、ツールを決める。 個
4	文章を読み返す。	友達にアドバイスをもらう。 協 個
5	友達と読み合う。 単元を振り返る。	友達と読み合い、感想を伝え合う。 学習評価はどうだったか。 協 個

子供とねらいを共有したら、次に共有したいのは、この単元が何時間でどんな活動内容なのかということです。子供がねらいも時間も活動内容もわからずに主体的に学べるはずがありません。この単元は、5時間で活動内容はこの通りです。隣の欄に個別最適な学びと協働的な学びの欄を設けましたが、こちらは子供と共有してもしなくてもどちらでもよいと思います。この単元では、個別と協働の場をこのように設定することができます。個は自己決定の場です。教師が決めたのではなく、自己決定の場があることで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業となっていくます。2時間目は協働の場で、組み立て表を読み合いながら手直しをしていきます。ここで読み合う視点ですが、前スライドのねらいに沿った視点をを与えます。伝えたい内容に合った図や資料か、内容のまとまりで段落をつくっているか、理由や例をあげて説明しているか、です。これまでも同じように進めてきたと思いますが、すでに個別最適な学びと協働的な学びについて実践していたということです。今後はこのように、意識して取り入れた教材研究ができると思います。

学習評価（書くこと：思考・判断・表現）

イ（構成の検討）

A	B	C
生き物ブックに書く内容の中心をはっきりさせ、段落のつながりを考えて新しい段落を加えている。	生き物ブックに書く内容の中心をはっきりさせ、段落ごとに書いている。	生き物ブックに書く内容を決め、文章を書いている。

ウ（考えの形成・記述）

A	B	C
理由や具体例及び、自分の経験や調べたことによる理解の深まり等をあげて説明している。	理由や具体例をあげて説明している。	自分の考えが伝わるように説明している。

環境を整える

資料・図鑑
虫かご等
興味・関心がもてる



2年生での学び
を振り返ること
ができる



活動の流れが
わかる

大事なことが
いつでも確認
できる



大事な言い方
〇〇のように
〇〇のよう
〇〇からです。
このように

この「生き物ブックを作ろう」という単元で、みなさんだったらどんな学びの環境にしていけますか？

生き物の絵本、図鑑、だけでなく本物の生き物を虫かごに入れて置いておくだけでも、興味関心が湧くと思います。また、昨年2年生の時には生き物クイズをつくっているはずです。その時の学びを想起させ、3年生での学びと関連付けるのもよいと思います。

また、単元計画には書ききれない活動の流れやおさえたい大事な表現等も掲示物としてあるといつでも目にすることができ、主体的な学びへと手助けしてくれます。